



伊保小だより

NO.15
令和2年7月15日
高砂市立伊保小学校

校訓 かしく・つよく・うつくしく

「あなたがあの時」

沖縄は、先月の6月23日、沖縄戦の戦没者を悼む「慰霊の日」を迎えました。最後の激戦地となった沖縄県糸満市摩文仁（まぶに）の県平和祈念公園では正午前から、コロナ禍により規模を縮小し、沖縄全戦没者追悼式が開かれました。式で読み上げられた「平和の詩」。戦後75年の今年、県内の小中高校生らの計1119作品から選ばれたのは、沖縄県立首里高校3年の高良（たから）朱香音（あかね）さん（17）の詩「あなたがあの時」でした。高校生の高良さんが朗読した「平和の詩」の全文を紹介します。

「あなたがあの時」

沖縄県立首里高校3年 高良朱香音さん

「懐中電灯を消してください」
真っ暗になったその場所は
あまりにも暗い
少し湿った空気を感じながら

一つ、また一つ光が消えていく
まだ昼間だというのに
私はあの時を想像する

あなたがまだ一人で歩けなかったあの時
あなたの姉は学校へ行けなくなった

あなたの兄は人を殺すことを習った

あなたが走れるようになったあの時
真っ赤っか

あなたが駆け回るはずだった野原は
友だちなんて誰もいない

あなたが青春を奪われたあの時
家族もいない 食べ物もない
ただ真っ暗なこの壕の中で

あなたはもうポロポロ
あなたの見た光は、幻となって消えた。

「はい、ではつけていいですよ」
照らされたその場所は
あまりにも暗い
体中にじんわりとかく汗を感じながら

一つ、また一つ光が増えていく
もう真っ暗ではないというのに
私はあの時を想像する

あなたが声を上げて泣けなかったあの時
あなたは生き延びた

あなたの母はあなたを殺さずに済んだ

あなたが少女に白旗を持たせたあの時
少女は助かった

彼女は真っ直ぐに旗を掲げた

ありがとう

あなたがあの時
私は今 ここにいる

あの人を助けてくれたおかげで

あなたがあの時
この島は今 ここにある

前を見続けてくれたおかげで

あなたがあの時
私たちは 知った
永遠に解かれることのない戦争の呪いを

勇気を振り絞って語ってくれたおかげで
決して失われてはいけない平和の尊さを

ありがとう

「頭、気をつけてね」
真っ暗闇のあの中で
私は消さない 消させない
梅雨晴れの午後の光を感じながら

外の光が私を包む
あなたが見つめた希望の光

私は平和な世界を創造する

あなたがあの時
未来に向けた穏やかな横顔を
平和を求める仲間として

私を見つめたまっすぐな視線
私は忘れない

沖縄戦を体験した世代が戦争を語ってきた勇気や、記憶を伝えていく使命感を詩に込めたそうです。体験者の心に届き、若い人が発信する機会になればと願うそうです。当時戦争をよく理解していなかった体験者の視点を「あなた」に投影し、小学校で聴いた講話などから、悲惨な体験に思いを寄せたそうです。亡くなった首里高校生たちの写真を見学し、自分の身を当時に置き換え、教室にいる友達や自分が死ぬことも想像したそうです。戦争を経験した世代が減っていく中、語ってきたことへの感謝も込め、75年の節目に平和を伝える使命感を感じ、詩にも決意を盛り込んでいます。

2020年 伝えたい言葉

兵器生産のお金を全部私にください。

そのお金で私は、全世界の何百万人という飢えに苦しむ人たちのおなかをいっぱいになりたい。

マザー・テレサ(マケドニア)